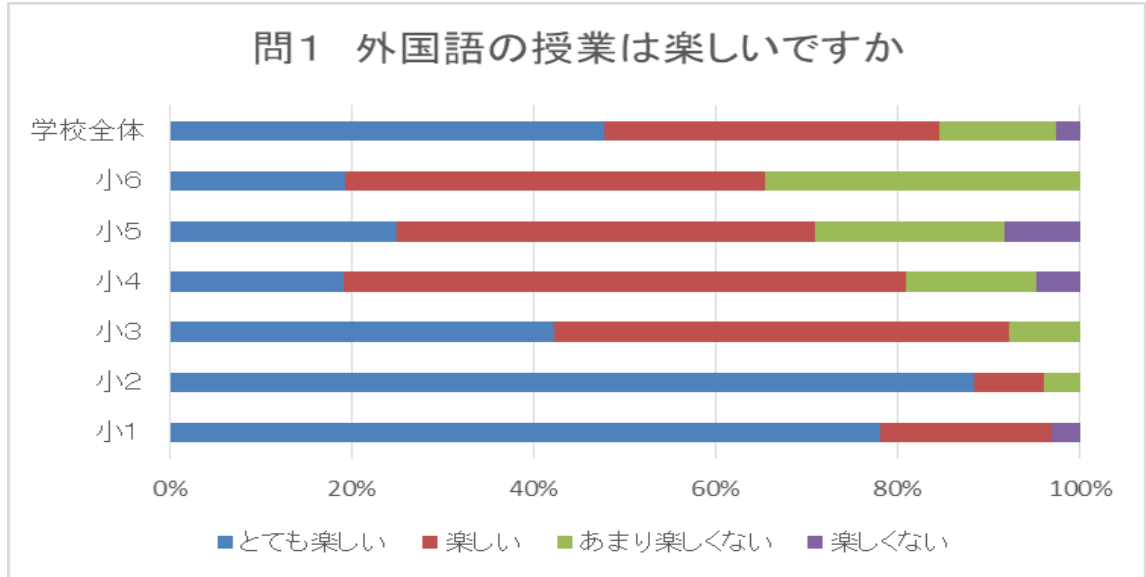


文部科学省教育課程特例制度(天草市教育委員会外国語科推進事業)による
令和4年度外国語科に関する調査結果

天草市立佐伊津小学校

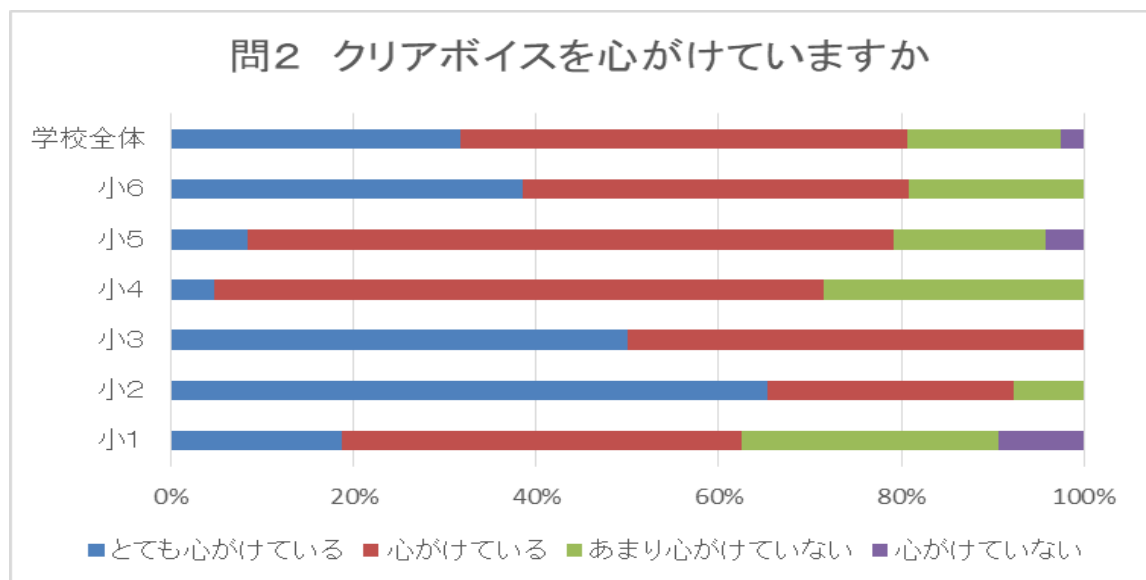
1 児童アンケート結果

(1)「問1 外国語科の授業は楽しいですか」について



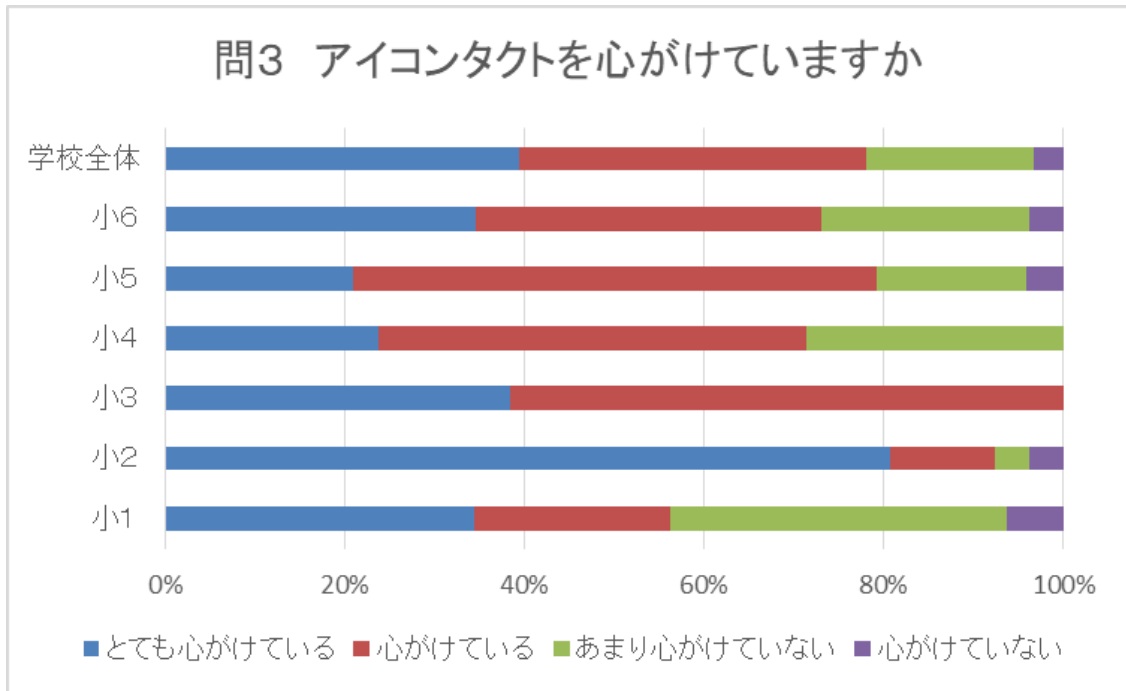
学校全体で80%超の児童が、「とても楽しい」「楽しい」と答えている。しかし、約15%は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えている。上学年になるにつれて、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答する児童が増える傾向にある。特に、6年生は約30%の児童がそう答えており、高学年の外国語科の授業において、今後も指導の工夫が必要と思われる。

(2)「問2 外国語科の授業で、相手に伝わりやすいようにはっきりした大きさの声で話すことを心がけていますか(クリアボイス)」について



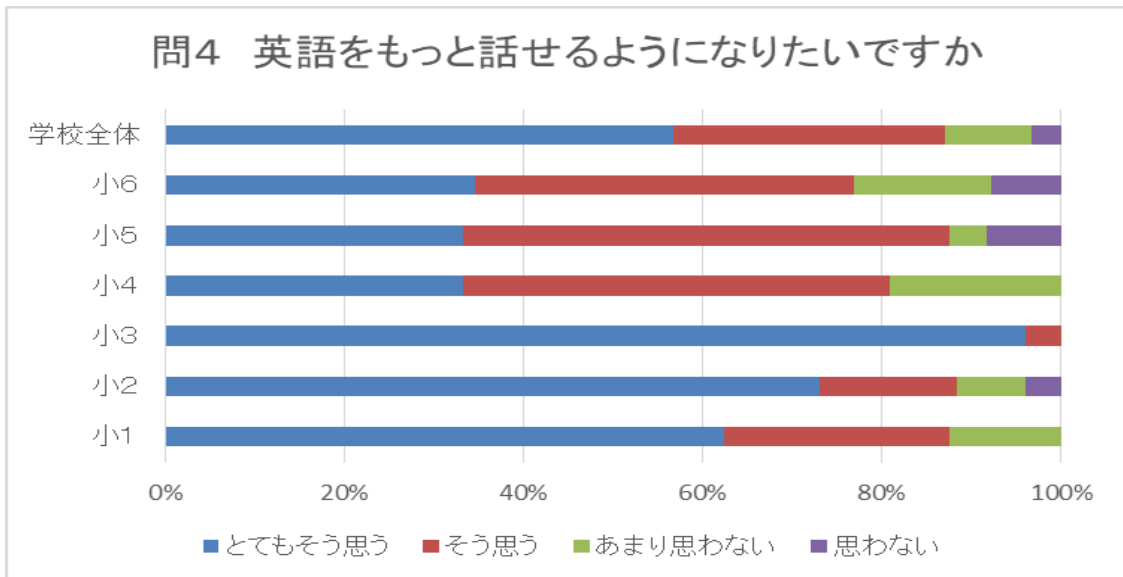
学校全体で約80%の児童が、「とても心がけている」「心がけている」と回答している。(1)の結果と相関関係にある学年もあり、2年生3年生においては、楽しみながらコミュニケーションができていことがうかがえる。

(3)「問3 相手の目を見ながら話すことを心がけていますか(アイコンタクト)」について



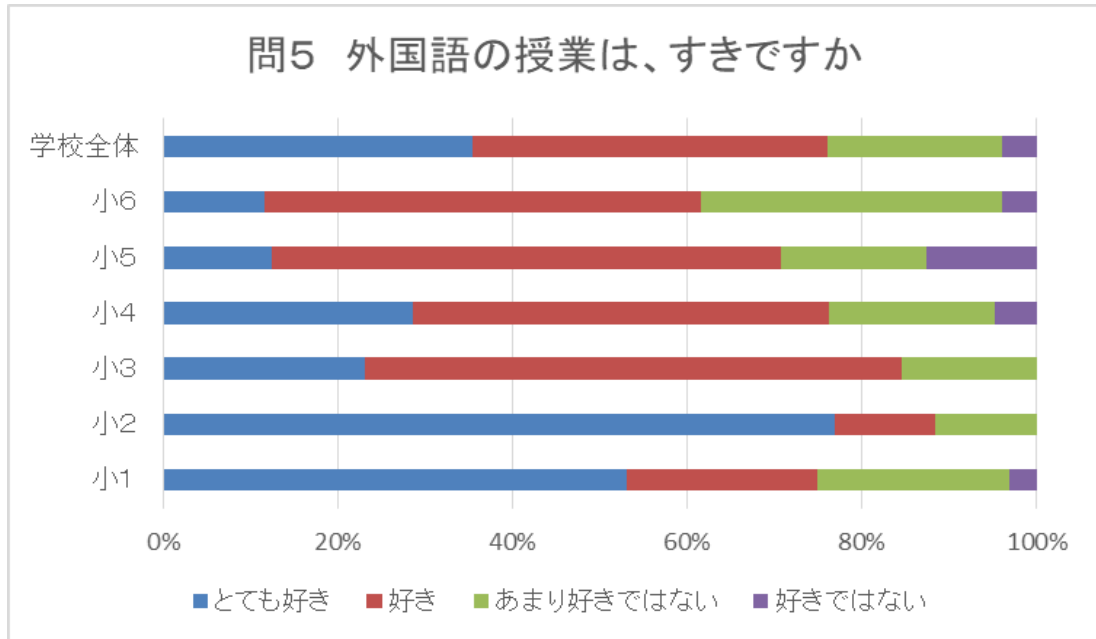
学校全体で約80%の児童が、「とても心がけている」「心がけている」と答えている。しかし、約20%は、「あまり心がけていない」「心がけていない」と答えている。(1)の結果と相関関係がみられる学年(2年・3年)が、見受けられる。外国語科の授業だけでなく、「相手の目を見ながら話す(アイコンタクト)」の意義を、とらえさせていく必要があると考える。

(4)「問4 英語をもっと話せるようになりたいですか」について



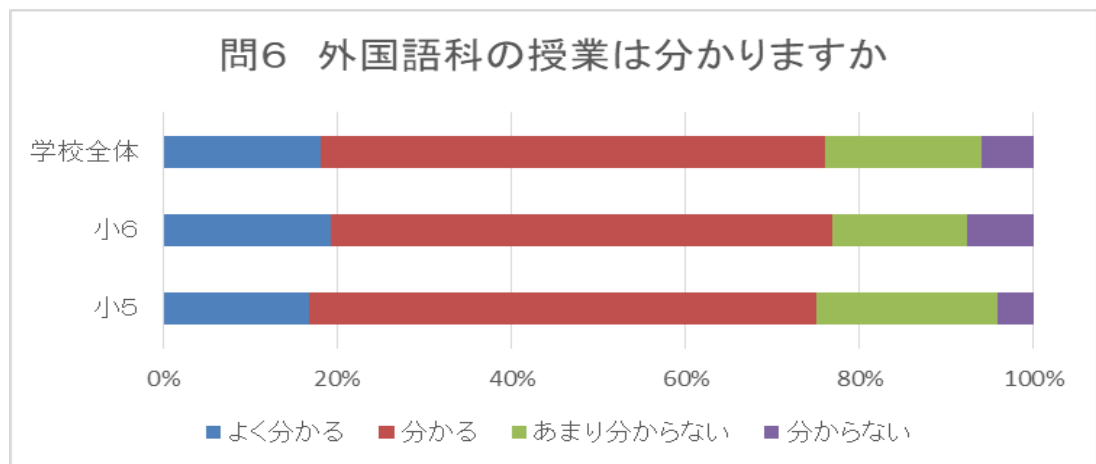
学校全体で約90%の児童が、「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。しかし、(1)との相関関係がみられる学年がある。5年・6年においては約20%の児童が「思わない」と回答している。引き続き、必然性のあるコミュニケーションの場づくりを取り入れ、「分かる、できる授業づくり」や有用感を与えられる取組をめざしていく。

(5)「問5 外国語の授業は、好きですか」について



学校全体で約80%の児童が、「とても好き」「好き」と答えている。ここでも、(1)との相関関係があると思われる学年(2年・3年)が見受けられる。授業が「楽しい」ことが、「好き」の判断基準になっていると考えられる。

(6)「問6 外国語科の授業は分かりますか」について(5・6年のみ調査)



5・6年のみ調査である。5・6年共に約80%弱の児童が「よく分かる」「分かる」と回答している。児童が「よく分かる」「分かる」と答えた詳細を探るとともに、これからも児童が主体的に授業に取り組めるよう授業改善を図っていく必要がある。

以上、(1)～(6)について、アンケート調査を実施し、考察を図った。児童一人一人についてクロス集計をしていないので、断言はできないが、これらについて相関関係はあるようである。児童が「楽しい」「好き」「分かる」「もっとやってみたい(話したい)」と実感できる外国語科の授業づくりについて創意工夫をしていきたい。また、中学校へ学びをつなぐために、英検等への受検も促していく必要がある。